

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21 年 6 月 17 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ウェルネス東城 ( 広島県 )
評価調査員の氏名	氏 名 延平 和子 氏 名 羽原 高代
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 桑原 延子・河村早苗 ヒアリングを行った職員数 ( 2 ) 人

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1, 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3474900440
法人名	(有)ウェルネス・プランニング
事業所名	グループホームウェルネス東城
所在地	広島県庄原市東城町川東1360-1 (電話) 08477-3-0951
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 21 年 6 月 17 日

## 【情報提供票より】(21 年 4 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 8 人 非常勤 13 人 常勤換算 13.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 ~ 55000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1167 円

### (4) 利用者の概要( 4 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	84.6 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団増原会東城病院・生熊歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成 21 年 7 月 15 日

周辺には支所、病院、商店があり、駅や自動車道のインターも近く、すべての面で立地条件が良い。町の中心部ではあるが緑もいっぱいあり季節感も感じられ住みよい環境である。職員も地元の方が多く利用者も安心し馴染みの関係ができています。ケア面においても趣味を活かしたと取り組みや力量におおじた役割ごとを積極的に取り入れ、機能維持に努めている。事業所全体に音楽を流すなど工夫され明るく楽しく過ごしてもらえよう支援している。また遠出のバス旅行など計画し、楽しみごとの支援に取り組みられ住み慣れた地域で穏やかに過ごされている。常に家族に細やかな報告が行わなわれているため安心できる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の外部評価の改善点については全職員で共有し取り組まれた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	評価の意義については理解している。自己評価については、ミーティングの中で意見を聞き取り作成された。改善点に気づく機会となり具体的な改善に向け取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	家族代表、地域代表、地域包括支援センター代表、児童委員会副会長、民生委員の参加のもと定期的開催し、利用者の状況や年間行事の報告を行い、各メンバーからの意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	電話や訪問時に意見や要望について常に問いかけをしている。出されて意見については職員間で話し合い改善につなげるよう取り組み、それを運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内会、商工会にも加入し、地域のいろんな行事に積極的に参加したり、事業所の行事にも沢山のボランティアの方に来てもらうなど地域との関わりを大切にしている。又保育所の園児さん達との交流も積極的に行っている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の中に、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支援する、という独自の理念が作成され日々実践に向け取り組まれている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「地域の中でその人らしく・・・」という理念の浸透に努めるよう挨拶を通して地域との関わりを重視した取り組みがされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、商工会にも加入し、地域のいろんな行事に積極的に参加したり、事業所の行事にも沢山のボランティアの方に来てもらうなど地域との関わりを大切にしている。又保育所の園児さん達との交流も積極的している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については理解している。前回の外部評価の改善点については全職員で共有し取り組まれた。自己評価については、日々のミーティングの中で意見を聞き取り作成された。改善点に気づく機会となり具体的な改善に向け取り組まれている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者の状況や年間行事の報告をし各メンバーからの意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所も近隣にあり困難な問題点などについてアドバイスをしてもらう事が多い。又、色々な活動の中でも担当者とお会いする機会が多いため常に情報提供をしてもらいそれらをサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や金銭報告をする際などに手紙を添え暮らしぶりや健康状態について伝えている。急を要する場合は電話などで報告している。職員の異動については、訪問時や行事などで知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や訪問時に意見や要望について常に問いかけをしている。出されて意見については職員間で話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考え異動は最小限にしている。ユニット間の異動はあるが常に交流があるためダメージは少ない。やむを得ず離職の場合は利用者に理解してもらえよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はリーダー、管理者が参加している。内容については月1回のミーティングの中で全職員に周知している。内部研修についてはケア面について定期的に行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色々な案件などについて連絡は取り合うことはあるがネットワークづくりまでには至っていない。		サービスの質の向上のためにも関連の事業所と交流を持ち、見学や相互研修、事例検討会などを通して事業所以外の人の意見や経験をケアに活かしていく取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前面談を行い、利用者、家族に見学してもらい、段階的に工夫しながら徐々に雰囲気に馴染んでもらえるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の会話の中で昔の話を聞かせてもらう時などに昔の歌や生活の知恵を覚えてもらう事があり、共に支えあう関係となっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴を基に利用者の思いを把握し希望に添うよう努めている。歩行訓練の希望などもあり残存機能を活かしたケアの取り組みをしている。困難な利用者には家族の訪問時意見を聞きながら本人本位に検討し対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族、ケアマネジャー、担当で話し合い職員の意見も取り入れ作成している。できた計画は家族の承諾を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回アセスメントをし計画の見直しを行っている。一人ひとりの状態により変化があればその都度状況に即した見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の要望により、診療所等への受診支援やリハビリへの同行など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診はないが状態が変化した場合は臨機応変に往診支援ができる体制がある。またかかりつけ医の往診は月1回あるため適切な医療が受けられる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や主治医、職員間で話し合い方針の共有をしている。また、看とりの体験もされマニュアルも作成し希望があれば看護師を中心にその都度話し合い、対応できる体制ができている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、利用開始時同意を得て取り扱いにも配慮している。また一人一人の尊厳を大切にした支援をされ言葉かけも優しく対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に配慮しながら、思いや希望に沿った支援に努めている。趣味など好きなことを自由にしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で収穫した食材を使ったメニューの昼食で職員と会話を楽しみながらされている。また利用者の力量に応じ声かけをしながら準備や片づけなどもしてもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日は決まっているが希望により毎日でも入浴できる。拒否の方には色々と工夫し気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、食事の下ごしらえや部屋の掃除、洗濯ものの取り入れ等できる事はしてもらい感謝の気持ちも伝えている。散歩や買い物、ぬりえなど楽しみごとの支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物、ドライブなど希望により出かけている。また、季節感を味わってもらうため外出計画をたて、バス旅行に出かける事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない。居室に鍵は無いが利用者の希望で夜間かけないと安眠できないという方には鍵をつける検討をしているが、全職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練は実施している。マニュアルを作成し役割分担についても周知し、運営推進会議の中でも議題にされている。		引き続き運営推進会議の中で問題提起され、地域の協力を得る働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は記録され利用者の状態に応じた支援をさている。季節の食材を取り入れ栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れた飾りや、料理を作る音、匂いなど生活感が感じられ、不快な音や光もなくリビングが吹きぬけになっていて風通しがよく居心地良く過ごせる共有空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室、和室があり希望に沿った部屋に馴染みの物を持ち込まれ思い思いに工夫され居心地良く過ごされている。		



# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ウエルネス東城(東ユニット)

評価年月日 2009年 6月 17日

記入年月日 2009年 5月 8日

記入者 管理者 氏名 河村 早苗

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	その人らしさとは何なのか、試行錯誤の日々です。地域密着型サービスの一、事業所としてだけでなく地域に根ざす、地域に貢献できるよう日々努めています。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	上記の理念の共有に加え、入居者も職員もこの地域の一員であるという認識をもつよう努めています。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	家族の方には入居案内書、運営規定などの開示で理解を求めています。入居者、職員と共に地域に出向くことで、認知症になってもその人らしく、当たり前で暮らしていけることを地域の人々に感じてもらうよう努めています。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	隣近所の人と挨拶、会話を日常的に行っています。顔なじみの関係を今後も図っていきたいです。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	地域の季節行事へ積極的に参加させてもらっています。また保育所との交流会、ボランティアの方々の来所などを通して交流させて頂いています。今後も継続していきたいです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会、サロン会などに「認知症」に関する簡単なお話しをさせて頂いています。		できる限り、活動の拡大ができればと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	井の中の蛙にならないよう、いつも風通しの良い環境にするためにも必要で意義があることと理解しています。課題に挙げられた項目の改善に徐々に努めています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での報告の形を取っています。意見交換も行われ、サービス向上に活かしていくよう努めています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時必要な申請書類の提出や介護保険連絡会への参加、認知症キャラバンメイトとしての活動参加などの機会に行き来させてもらっています。必要に応じて指導をいただいています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を活用している入居者の方が1名おられます。権利擁護に関する知識、理解を深める必要があると思われます。		ミーティングなどを通して学ぶ機会を設けたいです。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	繰り返し学ぶ機会をもち、理解を深める必要があると思われます。		ミーティングなどを通して学ぶ機会を設けたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>一方的な説明にならないよう努めています。不安、疑問点は必ず尋ねて理解・納得を得られるように努めています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で入居者から管理者や職員、外部者へ話されることがあります。また入居者からご家族へ話されこともあります。いずれにしても素早く意見を反映できるよう努めています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>急を要する事は電話でお知らせ、報告をしています。利用料の支払い時や、ご家族参加の行事、日常的な面会時などにそれぞれ報告しています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の窓口も設けています。ご家族参加の行事や日常的な面会、電話の際に話していただけるので、意見を反映しやすいです。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、リーダー会議、運営者と職員の定期的な個人面談の機会を通して、意見や提案を反映させられるよう努めています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>可能な限り、対応できる状況、環境にできるよう、十分な話し合いができるよう努めています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の都合で入居者に影響が出ないように努めています。異動や離職はやむを得ない場合もありますが、入居者のみなさんが安心して暮らしていかれる環境を整えるよう配慮します。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修へ、順次職員を可能な限り参加させています。研修内容を書面に記入、ミーティング時に他の職員に発表する形を取り、職員の知識向上に努めています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険連絡会、認知症キャラバンメイトなどの参加はあるが一部の職員にとどまっているのが現状です。		参加できる職員を増やしていけたらと思います。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な個人面談を通して、悩み、相談の聞き取りをし、ストレスの軽減をはかるよう努めています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の関わり、また定期的な個人面談を通して、職員個々の把握に努めています。資格取得を念頭に向上心を持つよう声かけをしています。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、またはご家族によく聴き、受け入れるよう努めます。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同様。すぐに入居を求めて来られるご家族が多いのが現状です。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、他の事業所への照会を行い柔軟な対応ができるよう努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの見学、また事前面接時にパンフレットの閲覧、状況説明を十分に行い、ホームの雰囲気を感じてもらえるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にしている同士として信頼関係を築けるよう努めています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族によっては、コミュニケーションをさらに密にしていく必要がある所があるのが現状です。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の関係は様々です。入居後にも良い関係が持続できるよう、また入居を機に良い関係が築けるよう努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等で来所される方にはよいが、入居者が気にされている方がいれば家族との協力を得ながら支援に努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係が複雑な分、関わり合い、支え合いに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて訪問、面会、電話などで関係の継続をしています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めてはいます。必要に応じて家族の方に協力を得ています。希望や意向は入居者によって異なるのは当然ですが、叶えられない希望、意向には職員もジレンマを感じます。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできるだけ生活歴、馴染みの暮らし方等を把握し、入居後も続けて把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握と共に、日々の生活の中で気づいたこと、変わったことがあったら、介護記録、申し送りノート等に記録し情報を共有できるようにしています。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者からの情報を書面、データーにおとし、検討しています。介護計画案は家族に提示、了解を得ています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直し、評価を行っています。急な変化が生じた場合は、状況に応じた新たな介護計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、ミーティングノートなどに記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性として、通所、ショートステイが挙げられるが、場所の確保等取り組みが出来ていません。		現段階では場所の確保等早急には難しいのが現状。将来的に環境、体制が整えられるよう努めたいです。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日頃から地域の民生委員、ボランティア、警察、消防等との関わりを大切にしています。ホームでの行事、避難訓練等協力頂いています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の事業者、ケアマネジャーとの連絡、相談、情報交換をしながら支援しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居前後も引き続いて支援を受けられるよう、また今後必要とされる入居者にスムーズに支援を受けられるよう、地域包括支援センターとの協働に努めています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関以外にも、本人・家族が希望されている医療機関があれば継続してもらっています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各医療機関の医師は職員の相談を快く聞き入れて下さり、助言、指導を下さっています。症状によっては必要に応じて他の医療機関の紹介を下さっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は常に入居者の健康状態の把握ができるよう努めています。介護職員も同じく努め、異常の早期発見、受診につながるよう心掛けています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者や職員ができるだけこまめに面会に行き、入居者の状態把握をします。その都度、病院関係者との情報交換し、退院に向けた支援ができるよう備えています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関にて本人や家族、主治医、職員と話し合いをする機会を設け、方針を決め、共有しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としてできることは最大限させて頂くよう努めます。事業所は医療機関ではないことを家族の方に理解して頂きます。医療機関との連携を密にし、入居者の状態変化に臨機応変に対応できるよう心掛けています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に関する様々な情報はできるだけ入居前に収集し、ケア関係者は把握に努めます。入居者によって慣れるまでの期間はそれぞれですが、落ち着いて安心されるまでは十分な声かけ、対応ができるよう努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1．その人らしい暮らしの支援			
( 1 ) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	居室に入る際はノック、必ず声かけをしています。トイレや入浴時の配慮は特に気を付けます。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一方的な介護にならないように注意し、分かりやすい声かけ、説明を心掛けています。入居者本人のペースに合わせ、決められる場面作りに努めています。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	できる限り本人のペースに添うよう努めています。入居者の体調に配慮します。柔軟で臨機応変な対応に努めています。	
( 2 ) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	服選び等入居者に決めてもらい必要に応じて手伝っています。理容・美容については、一ヶ月半に1回のペースで当ホームに理容師さんを招き、散髪をして頂いています。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	季節の食材を使い、一緒に作る事、食べる事を楽しんでいます。入居者それぞれのできることを見極めて無理のない範囲でして頂くよう配慮しています。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	職員は入居者一人ひとりの嗜好品を把握し、本人の様子や時間をみながら楽しめるよう支援しています。たばこについては、職員が預かり、本人の希望に添って換気の良い、見守りのできる場所で吸えるよう配慮しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターン、排泄量を把握し失敗やおむつを軽減できるよう努めています。入居者の体調にも合わせています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>できるだけ希望に合わせられるよう努めています。シャワー浴の方、浴槽へ入られる方、全身を洗う介助の必要な方、洗髪や背中だけ介助の方、入浴の嫌いな方もおられ、それぞれに気持ち良く入浴していただけるように支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜逆転にならないよう配慮しながら、1日の生活リズムづくりの中で睡眠時間の確保を図っている。夜間の度々の目覚めには、飲物を勧めたり会話したりしてリラックスしていただいて、入眠を促しています。</p>		
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりのできる事を無理なくして頂き、感謝の意を伝えていきます。入居者の経験や知恵を借りて、漬物や干し柿作り、日々の食事作りをしています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者間で金銭トラブルを避ける為、各入居者の小口現金をホームでお預かりし、本人希望時、随時機会を作って買い物の楽しみを味わってもらっています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の本人の希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出掛けている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>入居前から馴染みであった所や、自宅周辺など、入居者の希望あれば家族の方に相談し出かけられるよう支援しています。季節に応じた行事として家族の方にも来て頂き、外出の機会を作り支援しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り、実現できるよう支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に設定はなく、都合の良い時間に来て頂いています。居室、共同フロア、和室などで居心地よく過ごしていただけるよう心掛けています。		
( 4 ) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず拘束をする場合は、本人や家族へ説明、理解を得、最小限で行えるよう努めます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを心掛けています。日中門扉の開放をしています。居室には元々鍵はありません。入居者の状態により、夜間鍵をかけないと安眠できないという方には、様々な工夫したケアをしそれでも安眠につながらない、日常生活に支障が出るようであれば鍵をつける検討し実施。外からでも開閉のできる鍵とします。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在把握には常に注意するよう努めています。夜間には時間毎巡視に回り、様子、安全確認しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品、薬品や洗剤、刃物等の保管場所を職員は把握しており、入居者に必要時には職員が見守りまたは支援できるよう努めています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態を日々把握します。誤嚥のリスクが高い方への食事介助や服薬方法、タバコを吸う方への気配り、見守りなど。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所内職員間で学習したり、また消防署の協力を得て応急手当、初期対応の訓練を実施しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は入居者と共に避難訓練を実施しています。消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの指導を頂いています。消防署の方には認知症の方の誘導には時間がかかると認識され災害時にはいち早く駆けつけますと言葉を頂いています。地域の方にも理解を得ていると思われます。		
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の本人らしさについて家族等と話しをするよう努めています。リスクも念頭におきながら本人らしい暮らしを維持するには家族なら何ができるか、職員は何ができるか。		
( 5 ) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調の変化に気づいたら、バイタルチェックを行い、必要に応じて受診しています。体調変化の様子、バイタル数値、受診内容を細かく記録し、情報共有に努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別に整理しています。受診して、薬の処方に変更あれば申し送りノート等への細かい記録をし、情報の共有に努めています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者全員に水分摂取チェック、排泄チェックを行っています。繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、散歩や体操等日常的に行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄に声かけ、誘導、介助し、一人一人の口腔内の清潔保時に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェック表に記録しています。一人一人に見合った栄養、水分量の把握し変化の見極めに努めています。入居者の状態に応じて、食事、水分の形態を変えます。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防として手洗い、うがいの励行を前提に努めています。早期発見、早期対応にも努めます。取り決めはマニュアルに沿うものとしませんが、主治医との連携を強化します。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板ふきん等は、その都度漂白し清潔に心掛けています。冷蔵庫も点検、掃除をし、食材の残りは鮮度や状態を確認して、処分したり冷凍しています。食材は、新鮮で安全な物を使用する為、毎日購入しています。調理器具、水回りの清潔保時できるよう職員同士気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
( 1 ) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中門扉は開放し出入りしやすいようにしています。門扉から玄関に至るアプローチには植木を配し、プランタには花を植えています。敷地外構は低い鉄線格子堀にしてあり、周囲の自然景観が見通せるよう工夫しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ不快な音や光がないように日々配慮しています。その時期の旬な食物をとりいれたり、草木花を見て季節を感じられるように努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには6人掛けのテーブル2箇所、テレビ前には5人掛けソファを配し、4.5畳の和室それぞれで過ごせるよう居場所確保しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンス以外は、使い馴染んだ物を自由に持ち込みして頂いて居心地の良い居室になるよう工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	台所、共同スペースであるホール、トイレなど必要に応じて換気を行っています。ホールには床暖房、各居室には冷暖房備えてあり、入居者の状態に応じて調節しています。冬季には加湿器も備えています。		
( 2 ) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同スペースであるホール、トイレ、和室には手摺を備え付けています。バリアフリーとし、段差は必要最低限としています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めています。入居当初や状態が変わった場合はその都度本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームに隣接して、屋根つき物干し場、菜園や園芸用の畑を確保しています。日向ぼっこや軽作業、野菜や花卉の栽培を楽しめるようにしています。玄関先にベンチを置き、入居者が涼んだり、雑談できるような工夫をしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ウエルネス東城(西ユニット)

評価年月日 2009年 6月 17日

記入年月日 2009年 5月 8日

記入者 管理者 氏名 桑原 延子

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさとは何なのか、試行錯誤の日々です。地域密着型サービスの一、事業所としてだけでなく地域に根ざす、地域に貢献できるよう日々努めています。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念の共有に加え、入居者も職員もこの地域の一員であるという認識をもつよう努めています。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には入居案内書、運営規定などの開示で理解を求めています。入居者、職員と共に地域に出向くことで、認知症になってもその人らしく、当たり前で暮らしていけることを地域の人々に感じてもらうよう努めています。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人と挨拶、会話を日常的に行っています。顔なじみの関係を今後も図っていきたいです。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の季節行事へ積極的に参加させてもらっています。また保育所との交流会、ボランティアの方々の来所などを通して交流させて頂いています。今後も継続していきたいです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会、サロン会などに「認知症」に関する簡単なお話しをさせて頂いています。		できる限り、活動の拡大ができればと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	井の中の蛙にならないよう、いつも風通しの良い環境にするためにも必要で意義があることと理解しています。課題に挙げられた項目の改善に徐々に努めています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での報告の形を取っています。意見交換も行われ、サービス向上に活かしていくよう努めています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時必要な申請書類の提出や介護保険連絡会への参加、認知症キャラバンメイトとしての活動参加などの機会に行き来させてもらっています。必要に応じて指導をいただいています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を活用している入居者の方が1名おられます。権利擁護に関する知識、理解を深める必要があると思われます。		ミーティングなどを通して学ぶ機会を設けたいです。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	繰り返し学ぶ機会をもち、理解を深める必要があると思われます。		ミーティングなどを通して学ぶ機会を設けたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>一方的な説明にならないよう努めています。不安、疑問点は必ず尋ねて理解・納得を得られるように努めています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で入居者から管理者や職員、外部者へ話されることがあります。また入居者からご家族へ話されこともあります。いずれにしても素早く意見を反映できるよう努めています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>急を要する事は電話でお知らせ、報告をしています。利用料の支払い時や、ご家族参加の行事、日常的な面会時などにそれぞれ報告しています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の窓口も設けています。ご家族参加の行事や日常的な面会、電話の際に話していただけるので、意見を反映しやすいです。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、リーダー会議、運営者と職員の定期的な個人面談の機会を通して、意見や提案を反映させられるよう努めています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>可能な限り、対応できる状況、環境にできるよう、十分な話し合いができるよう努めています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の都合で入居者に影響が出ないように努めています。異動や離職はやむを得ない場合もありますが、入居者のみなさんが安心して暮らしていかれる環境を整えるよう配慮します。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 . 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修へ、順次職員を可能な限り参加させています。研修内容を書面に記入、ミーティング時に他の職員に発表する形を取り、職員の知識向上に努めています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険連絡会、認知症キャラバンメイトなどの参加はあるが一部の職員にとどまっているのが現状です。		参加できる職員を増やしていけたらと思います。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な個人面談を通して、悩み、相談の聞き取りをし、ストレスの軽減をはかるよう努めています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の関わり、また定期的な個人面談を通して、職員個々の把握に努めています。資格取得を念頭に向上心を持つよう声かけをしています。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、またはご家族によく聴き、受け入れるよう努めます。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同様。すぐに入居を求めて来られるご家族が多いのが現状です。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、他の事業所への照会を行い柔軟な対応ができるよう努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの見学、また事前面接時にパンフレットの閲覧、状況説明を十分に行い、ホームの雰囲気を感じてもらえるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人に寄り添う、必要に応じてそばにるように心掛けお互いに支えあえるよう努めています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も大切にしながら、要望を聞き入れ叶えるよう努めています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は本当に様々。入居前からの関係を維持しながら、又入居したことでより良い関係になるよう努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会等関係を継続してもらっています。住みなれた家への訪問を家族の了解を得て行うこともあります。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩の道中など、車いすを押し合ったり、できることを共同ですること支え合えるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて訪問、面会、電話などで関係の継続をしています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず、話しをしっかりと聞くことに努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ入居前に把握できるように努めているが、入居されてからも本人、家族の方に聞いて情報収集に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状態、変化の早期発見に努めています。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者からの情報を書面、データーにおとし、検討しています。介護計画案は家族に提示、了解を得ています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直し、評価を行っています。急な変化が生じた場合は、状況に応じた新たな介護計画を作成しています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、ミーティングノートなどに記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性として、通所、ショートステイが挙げられるが、場所の確保等取り組みが出来ていません。		現段階では場所の確保等早急には難しいのが現状。将来的に環境、体制が整えられるよう努めたいです。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日頃から地域の民生委員、ボランティア、警察、消防等との関わりを大切にしています。ホームでの行事、避難訓練等協力頂いています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の事業者、ケアマネジャーとの連絡、相談、情報交換をしながら支援しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居前後も引き続いて支援を受けられるよう、また今後必要とされる入居者にスムーズに支援を受けられるよう、地域包括支援センターとの協働に努めています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関以外にも、本人・家族が希望されている医療機関があれば継続してもらっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各医療機関の医師は職員の相談を快く聞き入れて下さり、助言、指導を下さっています。症状によっては必要に応じて他の医療機関の紹介を下さっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は常に入居者の健康状態の把握ができるよう努めています。介護職員も同じく努め、異常の早期発見、受診につながるよう心掛けています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者や職員ができるだけこまめに面会に行き、入居者の状態把握をします。その都度、病院関係者との情報交換し、退院に向けた支援ができるよう備えています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関にて本人や家族、主治医、職員と話し合いをする機会を設け、方針を決め、共有しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としてできることは最大限させて頂くよう努めます。事業所は医療機関ではないことを家族の方に理解して頂きます。医療機関との連携を密にし、入居者の状態変化に臨機応変に対応できるよう心掛けています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に関する様々な情報はできるだけ入居前に収集し、ケア関係者は把握に努めます。入居者によって慣れるまでの期間はそれぞれですが、落ち着いて安心されるまでは十分な声かけ、対応ができるよう努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
( 1 ) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけには十分注意し、トイレや入浴時のプライバシーには特に配慮しています。個人情報の関しては入居の際に同意を得て、取扱いに気を付けています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者本人が選択できる場面作りを心掛けています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの気分・ペースに合わせるよう努めています。</p>	
( 2 ) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>服選び等入居者に決めてもらい必要に応じて手伝っています。理容・美容については、一ヶ月半に1回のペースで当ホームに理容師さんを招き、散髪をして頂いています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節の食材を使い、一緒に作る事、食べる事を楽しんでいます。入居者それぞれのできることを見極めて無理のない範囲でして頂くよう配慮しています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は入居者一人ひとりの嗜好品を把握し、本人の様子や時間をみながら楽しめるよう支援しています。たばこについては、職員が預かり、本人の希望の添って換気の良い、見守りのできる場所で吸えるよう配慮しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターン、排泄量を把握し、失敗やおむつを軽減できるよう努めています。入居者の体調にも合わせています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>できるだけ希望に合わせてもらえるよう努めています。シャワー浴の方、浴槽へ入られる方、全身を洗う介助の必要な方、洗髪や背中だけ介助の方、入浴の嫌いな方もおられ、それぞれに気持ち良く入浴していただけるように支援しています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>昼夜逆転にならないよう配慮しながら、1日の生活リズムづくりの中で睡眠時間の確保を図っています。夜間の度々の目覚めには飲物を勧めたり会話したりしてリラックスしていただいて、入眠を促しています。</p>		
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりのできる事を無理なくして頂き、感謝の意を伝えています。入居者の経験や知恵を借りて、漬物や干し柿作り、日々も食事作りをしています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者間で金銭トラブルを避ける為、各入居者の小口現金をホームでお預かりし、本人希望時、随時機会を作って買い物の楽しみを味わってもらっています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の本人の希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出掛けています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>入居前から馴染みであった所や、自宅周辺など、入居者の希望あれば家族の方に相談し、出かけられるよう支援しています。季節に応じた行事として家族の方にも来て頂き、外出の機会を作り支援しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り、実現できるよう支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に設定はなく、都合の良い時間に来て頂いています。居室、共同フロア、和室などで居心地よく過ごしていただけるよう心掛けています。		
( 4 ) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず拘束をする場合は、本人や家族へ説明、理解を得、最小限で行えるよう努めます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを心掛けています。日中門扉の開放をしています。居室には元々鍵はありません。入居者の状態により、夜間鍵をかけないと安眠できないという方には、様々な工夫したケアをしそれでも安眠につながらない、日常生活に支障が出るようであれば鍵をつける検討し実施。外からでも開閉のできる鍵とします。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在把握には常に注意するよう努めています。夜間には時間毎巡視に回り、様子、安全確認しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品、薬品や洗剤、刃物等の保管場所を職員は把握しており、入居者に必要時には職員が見守りまたは支援できるよう努めています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態を日々把握します。誤嚥のリスクが高い方への食事介助や服薬方法、タバコを吸う方への気配り、見守りなど。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所内職員間で学習したり、また消防署の協力を得て応急手当、初期対応の訓練を実施しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は入居者と共に避難訓練を実施しています。消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの指導を頂いています。消防署の方には認知症の方の誘導には時間がかかると認識され災害時にはいち早く駆けつけますと言葉を頂いています。地域の方にも理解を得ていると思われます。		
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の本人らしさについて家族等と話しをするよう努めています。リスクも念頭におきながら本人らしい暮らしを維持するには家族なら何ができるか、職員は何ができるか。		
( 5 ) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調の変化に気づいたら、バイタルチェックを行い、必要に応じて受診しています。体調変化の様子、バイタル数値、受診内容を細かく記録し、情報共有に努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別に整理しています。受診して、薬の処方に変更あれば申し送りノート等への細かい記録をし、情報の共有に努めています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者全員に水分摂取チェック、排泄チェックを行っています。繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、散歩や体操等日常的に行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄に声かけ、誘導、介助し、一人一人の口腔内の清潔保時に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェック表に記録しています。一人一人に見合った栄養、水分量の把握し変化の見極めに努めています。入居者の状態に応じて、食事、水分の形態を変えます。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防として手洗い、うがいの励行を前提に努めています。早期発見、早期対応にも努めます。取り決めはマニュアルに沿うものとしませんが、主治医との連携を強化します。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板ふきん等は、その都度漂白し清潔に心掛けています。冷蔵庫も点検、掃除をし、食材の残りは鮮度や状態を確認して、処分したり冷凍しています。食材は、新鮮で安全な物を使用する為、毎日購入しています。調理器具、水回りの清潔保時できるよう職員同士気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中門扉は開放し出入りしやすいようにしています。門扉から玄関に至るアプローチには植木を配し、プランタには花を植えています。敷地外構は低い鉄線格子堀にしてあり、周囲の自然景観が見通せるよう工夫しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ不快な音や光がないように日々配慮しています。その時期の旬な食物をとりいれたり、草木花を見て季節を感じられるように努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づく 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには6人掛けのテーブル2箇所、テレビ前には5人掛けソファを配し、4.5畳の和室それぞれで過ごせるよう居場所確保しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンス以外は、使い馴染んだ物を自由に持ち込みして頂いて居心地の良い居室になるよう工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	台所、共同スペースであるホール、トイレなど必要に応じて換気を行っています。ホールには床暖房、各居室には冷暖房備えてあり、入居者の状態に応じて調節しています。冬季には加湿器も備えています。		
( 2 ) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同スペースであるホール、トイレ、和室には手摺を備え付けています。バリアフリーとし、段差は必要最低限としています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めています。入居当初や状態が変わった場合はその都度本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームに隣接して、屋根つき物干し場、菜園や園芸用の畑を確保しています。日向ぼっこや軽作業、野菜や花卉の栽培を楽しめるようにしています。玄関先にベンチを置き、入居者が涼んだり、雑談できるような工夫をしています。		



. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)